

第7回 西国分寺駅北口周辺まちづくり協議会 議事録

日 時：平成30年12月20日（木） 午後3時00分～4時40分

場 所：国分寺市立いずみホール Bホール

出席者：（協議会委員／五十音順 敬称略）

五十嵐 良江	市川 宏雄	小川 恵一郎	清原 公美子
小坂 宗次	小林 利勝	坂本 賢治	佐藤 一幸
島田 英之	中西 正彦	中山 勝博	原 清
藤原 大	星 卓志	武藤 稔江	八木 弘一
結城 順子			

事務局：国分寺市まちづくり部まちづくり推進課

- 次 第： 1. 開会
2. 議題
 (1) 第4回懇談会の開催について（報告）
 (2) グランドデザイン及びまちづくりの具体化方策の検討
3. 事務連絡
4. 閉会

配布資料

- 資料1：第4回懇談会開催概要
- 資料2：グランドデザインの検討における意見の整理
- 資料3：西国分寺駅北口周辺地区グランドデザイン及びまちづくりの具体化方策
（協議会案）たたき台
- 参考資料1：第6回西国分寺駅北口周辺まちづくり協議会議事録
- 参考資料2：第4回西国分寺駅北口周辺まちづくり懇談会
（西国北口コレカラ懇談会）議事録
- 参考資料3：生活道路における通過交通の流入抑制・速度抑制等の対策手法
- 参考資料4：まちづくり計画のイメージ
（国分寺市都市計画道路3・2・8号線 沿道まちづくり計画）

【議 事】

1. 開会 会長の開会宣言により協議会が開会。
2. 議題

(1) 第4回懇談会開催について（報告）

議題（1）について、事務局より資料1に基づき説明。

会 長：議題（1）は、9月に行った懇談会の報告である。懇談会では、協議会で各委員から出されたグランドデザインの提案を、駅前は4パターン、そして交通広場と歩行者空間、道路の配置をそれぞれ3パターンに分類し、その他関連事項についても整理し、それに対して意見を出していただいた。内容について、質問・ご意見があればお願いしたい。

島田委員：これまでの話し合いの中で、区域内の道路状況が危ないという意見、それに対して、将来のまちをどうするかという意見が色々出てきた。そこで、市にお願いして、それらに関連するデータを調べてもらった。

まず、過去2年間の交通事故の件数については、危険だという意見の多い、地区中央の東西道路「中4号線」については0件、地区全体でみても2件ということである。警察で把握している事故に限られるとは思いますが、現状の道路のままであれば、交通事故に関してはあまり心配しなくてもいい、という考え方もできる。ただし、歩道をつくってきちんと道路を整備すれば、より安全になるという考え方もあるかもしれない。

もう一つは西国分寺駅の乗降客数である。国土交通大学校の研修発表会に参加した際に、「中央線の中では西国分寺駅の乗降客数はワースト2である」という話を聞いた。では乗換え客数はどうかと思い、調べてもらった。それによると平成24年度の乗換え客数は約12万7千人ということだった。調査時から既に6年経過しているのに、現在はもっと増えているはずである。これらの乗換え客を上手く西国分寺駅の外へ降ろすことができれば、もっと西国分寺のまちは発展するはずなので、その点について考えていただきたいと思う。

会 長：懇談会のまとめについては、皆さんから出てきた意見を集約してパターン化したものをもとに行っているんで、皆さんのご意見はこれらのどこかに入っていると思われる。これらを踏まえた上で、この後の議題でどうしていくかについて検討していく。本議題については確認が主たるポイントである。他にご意見ご質問が無いようであれば、次の議題に移りたい。

(2) グランドデザイン及びまちづくりの具体化方策の検討

議題（2）について、事務局より資料2及び資料3に基づき説明。

会 長：協議会も今回で第7回目ということで、昨年度から色々な提案を出し合いながら検討を進めてきたが、いよいよ最終的に「このまちがどうなるか」について、

協議会案をまとめる段階になった。

当然、事務局がまとめたたたき台に対しては色々な考えがあると思うが、ここでのポイントは、昨年度の検討でまとめた 3 つのコンセプト、「暮らしやすい魅力的な住宅都市」「人が中心の都市デザイン」「まちを育て誇りを育む（エリアマネジメント）」であり、即ち、ハードだけでなくソフトのまちづくりも行うことである。

これらを実行することによって、「西国分寺式庭園都市」というオリジナリティのある都市をつくるということを提案している。

施策の体系についても、「回遊する」「風景をつくる」「憩う・集う」「住みたい・住み続けたい」という 4 つの切り口で構成しており、またこれらの 4 つが実現できる内容としている。

さらに、まちづくりのプロセスでは、具体的に実現するための順番を示している。施策によっては都市整備の補助金がつくものもある。

長い間行ってきた皆さんとの議論を集約し、整理して、とりまとめたものを、たたき台として示したものである。

議論したものが具体的な形になってきて、「皆が考えてきたことをまとめると、こうなるんだ」という印象ではないだろうか。場合によっては「こうなると思っていたことが入っていない」というご意見もあると思うので、それもおうかがいしたいと思う。

ただし、このたたき台はこれまでの議論の流れに従って取りまとめたものなので、ここから大幅に変わるということではなく、本日の議論は、たたき台を踏まえてよりレベルを上げていく、中身を詰めていくという過程になるかと思う。自由にご意見をいただいて、ブラッシュアップしていきたいと思う。

小林委員：西国分寺駅は、乗換え客はかなり多い一方、乗降客は少ない状況である。コミュニティバスは現状のままで北口には必要ないという提案であるが、それは違うのではないか。西国分寺駅の乗降客を増やしたいのであれば、なぜバスを入れないのか。西国分寺駅の南口を利用するのは大半が府中市民である。東口に関しては、駅改札設置の嘆願書も出ている。そのために東側にコミュニティバスも走らせている。

なぜ現在国立駅を利用している、小平市、並木町、北町方面の人たちを西国分寺駅へ呼び戻さないのか。

西国分寺ブランドを考える大前提は、近隣市から西国分寺駅に人を呼ぶこと、鉄道客を西国分寺駅で降ろさせることだと思う。それを前提として、国 3・

4・6号線、国3・2・8号線、武蔵野線、中央線で囲まれた地区の中でまちづくりを考えていくべきだ。

それなのに、今日の資料で、我々の意見とは全く関係なく話が完全に決まってしまうのではないか。ならば初めから市で原案を出してほしかった。このまちづくり計画は、我々の思いとは全く関係ない方向へ進んで行ってしまっている気がする。皆さんの意見だというのが、誰が賛成しているのか。

私は、道路をきちんと整備してほしかった。交通広場は国分寺駅にあるから必要ないだろう。駅前に人のための広場をつくり、そこでどう活動していくか。

これから人も車も少なくなっていく中で、我々の子供や孫達のために、このまちをどうしていくかを考えれば、小平にある高校・大学から、いかに西国分寺駅へバスで来させるか、土地を開発してもらうかが重要だと私は思う。

会 長：今のご意見は論点がずれている。まず今のご意見の中で、どうすれば人が来るかについて考え方を述べていない。

小林委員：現状、国分寺駅を利用している小平方面の人たちをバスで西国分寺駅まで呼び込めば良いと述べている。また、武蔵野線から中央線への乗り換え客を西国分寺駅でいかに降ろすかということである。

会 長：1年半近く議論をしてきて、この段階でそのようなご意見が出てきて驚いている。これまで、「このエリアにどのような付加価値をつけるか」という議論をしてきた。その付加価値が良いからまちに人が来るのである。論点のレベルが全く違う。ただし、これもまた個人的な意見であるので、自由にご意見を頂きたい。

小林委員：どう人を呼び込むかについて、私は意見を述べているつもりだ。即ち、駅前広場をどうすべきかである。

会 長：そのような個別の事柄でなく、全体としてまちをどうしていくかという議論を積み重ねてきて、その上でのまちのパーツについての検討である。駅前広場は、全体論からするとパーツの1つである。全体の議論の積み重ねの上に今回のたたき台はあると理解しているので、今の時点でそのような発言をされても、申し訳ないが受け入れがたい。

五十嵐委員：私も、事務局からのたたき台の説明の中で、確認したい点がいくつかある。

まず、バスに関しては、南口と東口があるので、北口には不要というのは疑問である。地区内にコミュニティバスが無いから必要だという話はさんざんしてきているにもかかわらず、なぜ要らないという結論になったのか。協議会で案が出ると決まったことになってしまうので、やはりこの場で意見したい。この

たたき台では、これまでの議論とは離れて、若い世代向けに施策がシフトしている印象を受ける。しかし今後高齢化が加速していく中で、やはりコミュニティバスのような交通機関は必要である。それが北口には必要ないとここで決まってしまうのは嫌なので反対したい。

また、農地の重要性について多く触れており、確かに他の地域から西国分寺に来て駅前に「農地があって良いですね」「残していくと良いですね」「中央線の駅前でこんな風景は珍しい」という方は多い。しかしそれは用途地域等の規制が厳しく、開発ができなかった結果残ってしまっただけである。農地は必ずしも緑ではなく、冬場は砂埃等の問題もある。また、農地は個人の土地であり誰でも入れるわけではない。それをコミュニティの資産であると位置づける必要があるのか疑問だ。

最後に、駅前の建築物等に関して、空き家問題などもあるので「人口減少社会を見据え、新たな住宅ストックを増やすことについては慎重な判断が必要」という説明があったが、どう事業費を捻出するかを考えれば、ある程度の整備は避けては通れないのではないかと。行政の財政状況も厳しいおり、慎重にならざるを得ないとは思いますが、完全に不要という結論にしない方が良いのではないかと。

会長：たたき台は、自然を残したい、農も残したいという中で、どのような手法やその組み合わせがあるか、これから具体的な検討に入っていく中で考えていこうというものである。事業手法についても同様に、今後、十分に検討することができる。

小坂委員：地区外に住んでおり、3ヶ月ぶりにいずみホールまで自転車で来たが、北町から府中街道に抜けて、西国分寺駅へ至るコミュニティバスの路線ができていて驚いた。今現在、北口駅前にコミュニティバスは入って来てはいないが、いずれ入れる方向で市は考えているのではないかと。思う。

また、市民農園も市民の方が楽しんで使っており、十分活用されているようだ。それらを見ても、やはり地区内に農地が残っていた方が良いと思う。

坂本委員：先ほど五十嵐委員から農地に関して意見があったが、私が武蔵野線沿いに所有している農地は、普段は作物を作っているが、災害時の一時避難所という役割も持っている。農地に一時避難し、その後、避難場所となっている第九小学校へ避難する仕組みである。また、小学校だけでは地域住民を全て収容できないと思われるので、地域にオープンスペースとして農地があった方が良く思う。

用途地域等の規制も農地が残っている要因の一つだが、生産緑地指定による納税猶予制度による制限により営農を続けている場合が多い。生産緑地法の改正も踏まえた上で、工夫して残していけたら良いのではないかと。思う。

島田委員：皆さんは農地が残る前提で話をしているが、相続が発生すれば、財産を分割しなければならない。そのためには農地を売らなければならない、必ずミニ開発が起こる。それを抑えこむ手法があれば、農地が永遠に残るかもしれないが、それは期待できないと思っている。であれば、他人の善意によらない方法を考えなければならない。

私のランドデザインの提案では、駅前から新府中街道方面に斜めに道路を描いた。なぜかという、将来、その先の並木町方面まで開発を行えば、自動的に並木町から西国分寺駅まで人がやってきて、必然的にまちが発展すると考えるからである。空き家が多いというが、それは西国分寺駅周辺には、他と比べて住むだけの付加価値がないからだ。その付加価値をどうつけるかを皆さんで議論している。

今日提案されたランドデザインのたたき台に示された、地区の真ん中にある「都市の中庭」は、外から客を呼ぶためのものでなく、この地区の人が使うことが主たる目的である。それも貴重なことではあるが、ただの公園の一種である。私は、これまで人を集めて、もっとまちが賑わうためにはどんなものが必要か提案し続けてきたつもりである。

議論の結果、緑や農を中心にもちを再構成する内容となっているが、20年後に緑が残っているのか疑問だ。私は、まちづくりは30～50年先を見越す必要があると考えている。このたたき台を見た時に、残念ながら、私の子供たちの世代は、このまちに将来戻ってこない、家売って出ていくことになるだろうと思った。結局、空き家が多いというのはそういうことなのだ。それらを踏まえてもう一度考えていただきたい。

決してこのたたき台を否定するつもりはないが、何か付加価値をつける方法はないものか。並木町やけやき台団地の住民は、雨の日には国立駅行きのバスが混雑して乗り切れず大変なので、結局自家用車を所有して、国立駅や西国分寺駅へ行っていると聞いている。先ほどの小林委員のご意見にあるように、バスで並木町や西町方面と西国分寺駅を繋げるような、市全体の道路網も踏まえた検討もあっても良いのでないか。

中山委員：私はたたき台の内容は、非常に面白い、将来に期待できるものだと思う。ただし、先の島田委員の心配に共感する面もある。キーになるのは「都市の中庭」の周りの緑が残るかどうかだと思う。これは市の方で、残すために条例を制定する等して動いていくしかないと思う。

また、「都市の坪庭」に関しては、確かに地区内に公園は多いものの、子供を遊ばせるには寂しい公園があまりにも多い。しかし、そこがリニューアルされ

れば、子育て世代が増えると思う。子育て世代が定住すれば、まちは持続する。私の子供が20年後結婚して出て行ったとしても、孫ができれば、「おじいちゃんの家の近くに公園があるから遊びに行こうよ」と言えるまちになるのではないかと思う。

また、バスについては、北町方面から来るコミュニティバスのバス停が、西国分寺駅を出てすぐの府中街道沿いにある。そこから駅までの距離が歩けないのであれば、北口にロータリーを作ってもバス利用は見込めないだろう。地域のコミュニティバスが近くまで来れば十分である。私は駅前にはロータリーは無くても良いと思う。現状で十分だと思うので、私は良い案だと思っている。

なお、確認であるが、駅前の「都市の前庭」に関して、資料6ページの図の歩行者空間の東側は白いままである。ここは駅を出てすぐのところであるが、広場にはならないのか。後で確認したい。

会長：駅前広場については、これから考えていく部分が多々あるので、今の時点で表現できないものもあると思われる。

八木委員：私は駅前地権者の協議会の代表として出席している。その立場で言えば、道路整備が第一条件である。

また、26haの地区全体の環境をどう良くしていくかを考えても、駅前の利用価値をもっと高めていく必要があるのではないか。

「都市の中庭」に関しては、確かに農業はこれからも重要だと思うが、この地区の状況を見れば、将来、農地が無くなった場合のことを考える方がむしろ重要であると思う。それを皆さんに議論していただきたい。

会長：理想を言えば、「都市の中庭」は、すべて公園化、公有地化できれば良いが、所有者との意向調整等も必要であり、今の段階でどうすると言えないが、何とか頑張ろうという方向を示している。

この先農地が残るかはわからないが、現状農地が残っていて、これらには所有者がいる。勝手に「こうしなさい」とは言えないが、方向として「農地を残しておきたい」と決めることができれば、手だては色々ある。それはこの地区の住民の合意事項となる。皆が残したいと思えば、所有者が売却しなければならなくなった時に、残す手だてに向かっていく。皆が都市の中庭の考え方が良いと思えば、次に発展していけると考えている。

清原委員：中山委員と同様に、今回の提案は、20年後も安心して暮らしていけるまち、ずっと住み続けたいと思える内容になっていると思う。

今回の提案の中で、姿見の池方面と地区内を結ぶ「緑と水の回廊」については、

緊急自動車も通行可能な6メートル道路としての機能も有している。このように相反する機能を持つ道路をハード面でどのように実現していくかが重要であると思う。歩行者主体としつつ緊急車両も通すのであれば、車両の流入規制等に相当の工夫が必要である。

なお、資料6ページの左側の地区内道路の写真は歩車分離になっているようだが、私が想像していたイメージと違い、違和感を覚えた。自分のイメージとしては、道路のところどころに植栽等が互い違いにあって、人が歩くのは気持ち良いが車は人に気を付けてゆっくり走る道である。

「都市の中庭」のコンセプトにも賛成である。国分寺ブランドの野菜を国分寺市民がこれからもずっと食べつづけていくために、身近に農地があることが非常に重要であるし、法改正も踏まえて、市民参加の取組などを通じて、色々工夫をして実現できれば良いと思う。

会 長：道路の工夫については、色々な手法があるので、これから詳細に検討していくものである。

坂本委員：先ほどの6ページの写真であるが、これは歩車分離の道路でなく、路側帯が白線で表示されているものである。歩車分離の道路は、もっと高規格である。

清原委員：この路側帯の白線があると車がスピードを出しそうな気がするので、個人的には白線が無い方がいいと思う。具体的な方法はこれからの検討事項である。

八木委員：坂本委員にお聞きしたいのだが、都市の中で自然の肥料等を使って農業を行う場合、臭い等で近隣の住宅とトラブルになることはないか。

坂本委員：確かに臭いや砂埃の問題はあるかと思う。ただし、防塵対策に住宅との境界に樹木を植える、肥料については埋めこんで臭いが広がらないようにする等、農家も周辺への影響を抑える工夫を相当されているし、周辺の住民も農地の重要性について理解されていると思う。

副 会 長：現在、調布の深大寺の近くの住宅地でまちづくりに関わっており、そこも生産緑地を中心に農地が沢山あって、これからどう考えるかがテーマになっている。確かに、都市内の農地に関しては、農薬、砂埃、虫、臭い等が敬遠されることもあり得るとい研究論文もあるが、実際に調布市の五千世帯の住民にアンケートを行ったところ、農地の存在はかなり受け入れられていることがわかった。農家の方が色々工夫されていることもあるし、直販所の存在がありがたい、というような意見もあり、農地や農家の存在が地域に受け入れられるとともに、そういう環境を求めて移ってくる人もいるようである。

五十嵐委員：地区の真ん中の東西方向の道路について、現在は新府中街道の本線に直接合流

して利用する人も多いので、新府中街道との接続をもう少し南に移動させることができれば、側道にしか入れなくなり、通過交通も減るのではないか。

事務局：ご指摘の東西方向の道路と新府中街道の接続については、便利なので利用したいというご意見と、便利なので使う車両が多いのでなんとかしたいというご意見があり、悩ましいところである。接続させないことは難しいが、地区内道路に入りやすくする工夫をすることは必要であると考えている。

五十嵐委員：側道を経由しなければ新府中街道に乗れないようにすることはできないか。そうすれば、だいぶ通過交通が減るのではないか。

島田委員：それらの議論もあって、地区内の交通事故件数を調べてもらった。その結果、意外にも交通事故はほとんどない。従ってイメージと現実は違っていると思う。

清原委員：抜け道になってしまうので、地区内道路から本線に接続しないように住民要望を出したにもかかわらず、直接本線に入れるようになってしまっている。

五十嵐委員：今はまだ地区内道路が狭いので事故が少ないかもしれないが、拡幅されると通過交通は増えると思うので、予め対策を決めておいた方がよい。

島田委員：しかし緊急車両は皆、そこの出入り口を使って、新府中街道沿いの都立多摩総合医療センターへ向かっている。接続を側道に限定して迂回させることにならない方がよいのではないか。

事務局：この件に関しては、新府中街道の構造や規制によるところが大きいので、当該道路の道路管理者、交通管理者にご意見をお伝えすることとしたい。

会長：今日は、前回の協議会及び懇談会で議論が煮詰まってきたので、それらを踏まえてランドデザインのたたき台をまとめて意見交換を行っている。冒頭ご意見のあった小林委員は、今回のランドデザイン及びまちづくりの具体化方策の案、計画のコンセプト自体についてはどうお考えか。

小林委員：西恋ヶ窪三丁目については、今のままの低層住宅地で良い。駅前広場については利用者のことも考え、どの程度の広さになるかが知りたい。そして、コミュニティバスを入れて小平方面からの大学生等呼び込みたい。

会長：駅前へのアクセス道路を整備するので車は入って来られる。どのような車両を入れるかは、これから考えることができるし、コミュニティバスを否定したわけではない。そのようなディテールではなく、今日のポイントは、これまでずっと議論してきた中で、西国分寺駅北口周辺を「いい住宅都市にする」ということで合意したが、それを具体化するまちの構造として、まず地区の真中に「都市の中庭」、そして駅前に歩行者空間と交通機能を備えた広場を「都市の前庭」としてつくる。それから地区全体に既存の公園を活用した「都市の坪

庭」をつくる。そのような施策の体系で環境を良くしていこうという考え方である。加えていくことはまだあると思うが、考え方が良いかどうかというのが今日の議論のポイントである。ご意見については理解できるが、それは、全体の考え方について合意した後の段階での議論になる。

小林委員：考え方には基本的には賛成である。一つだけ追加したいのは、「都市の中庭」に、以前から申し上げている災害時の指揮所となるような公共施設をつくるということである。

会長：「都市の中庭」については、コミュニティの核を地区の中央につくってはどうか、ということをご提案しているものであり、そこに何か施設をつくる可能性もある。具体的な機能は今後検討するものであり、そういった具体的な機能を否定するものではない。

小林委員：そういうことであれば、考え方に異論はない。

事務局：北口の交通広場の機能について多少誤解もあるようなので、説明を補足したい。交通結節点の機能として、まず路線バスに関しては、南口と東側で役割を担っているため、北口については、そのような広域交通を担う大型の路線バスではなく、コミュニティバスやタクシー、交通弱者のための車両等、地域の交通に必要なものを必要な分だけ整備していこうという考え方である。

中西先生：エリア全体の議論と駅前の機能の議論については問題の質が異なるので、そこが混同されると議論が錯綜してしまう。今回は、エリア全体のコンセプトが議題である。これについては、これまでの皆さんの意見で出されてきた「緑」や「暮らしやすさ」を重視してとりまとめられていると感じた。

ただし、駅前の機能に関してはまだ議論の余地があると思う。まず駅全体として見た時に、南口や東側にどのような機能が備わっていて、その中で北口はどのような機能を担うべきか、また、エリアの将来像を踏まえた上で、駅前はどうあるべきかを考える必要がある。

そのためには、資料3の1ページにある4つのエリアの役割分担の図を、駅前にフォーカスしたような、どこがどのような駅前の機能を担うかを検討する資料があると良いと思う。

遠くからバス路線を引っ張ってきて乗降客を増やそうという発想は良いと思うが、それを駅全体の中で、どこに着けるかという議論をすべきだ。全て北口で受ける前提ではないと思う。その点を意識した資料作成をお願いしたい。

全体の方針としては、中央線の中での西国分寺駅のあり方が見えていて良いと思う。

会 長：駅前については、個人的には、JRが駅舎をつくり直すという方向もあるのではないかと思っている。それらの可能性に期待しつつ、駅前については、実現に向けてこれからも議論していくことになる。

原 委 員：JRとしては、駅舎の建て替えは地元の皆様のご協力がないと難しい。また、まちの賑わいのために、西国分寺駅の乗り換え客を駅の外に降ろせないかという提案もあったが、観光名所があるわけでもテーマパークを誘致するわけでもないことを考えると、これはかなりハードルが高いと言える。それよりも、住みやすいまちづくり、人口減少社会の中で人口をどう維持していくかを考えるまちづくりを進めていく方が良いのではないか。

まち歩きをした時にも、道路状況の悪いところが見受けられた。全路線を拡幅する必要はないが、主要な路線は整備する必要があるのではないか。また、駅へのアクセス道路はしっかり整備した方が良い。交通広場の位置については、駅直近が良いのか少し離れたところが良いのか議論もあると思うが、こちらもきちんと整備する必要がある。

バスに関しては、路線バスについては南口等で処理できるのであれば北口に入れる必要はないが、コミュニティバスは絶対北口にあった方が良いと思う。それらの詳細は今後の議論になると思うが、全体の計画としては良いと思う。

会 長：グランドデザインについて、概ね皆「考え方は良い」と考えていると思うが、駅前の広場配置等については、もう少し明確にしていく議論が必要である。

駅前の考え方については、今後オプションが増えてくると思うので、そこはJRとも協力して進めていく必要がある。

原 委 員：単に駅だけの問題ではなく、まちがあってこそその駅である。

会 長：まさに、まちと一体となって駅をどうつくるかが重要なポイントである。ただしJRの立場とすれば、地元の協力がなければ何もできない。

原 委 員：どんなに良い駅ができて、まちづくりがなければ利用客も増えない。住んでいる方々が増えれば乗降客数増にも繋がるので、是非まちづくりに一緒に取り組んでいきたい。

中西委員：先ほども申し上げたように、駅周辺の機能についてはまだ検討する必要があると思われる。協議会での検討において、駅や駅周辺に対して色々なご意見や思いがあることを見ると、北口だけでなく、駅全体として「こうしたい」という課題があると思う。それらを全て、北口のまちづくりだけで解決することは無理だと思うので、成果物として西国分寺駅全体について「こうしたい」という意見や課題をリストアップして明らかにしておくと、今後、他地区の整備等を

検討する場合にも、参考になるのではないか。

坂 本：以前、市が駅周辺の地権者の方々にヒアリングをされているとうかがった。協議会以外の地権者の意見も気になるし、それを踏まえてまちづくりも考えていかなければならないと思うが、その点について事務局におうかがいたい。

会 長：関係者への意見聴取には手順がある。まず我々が何をやりたいかを検討し、ここでとりまとめた計画を持って聞きに行かないと、検討の途中段階で意見を聞いても答えようがない。ヒアリングを進めてはいると思うが、地権者も意見として明確にはなっていないと思うので、時期尚早ではないか。

坂本委員：ヒアリングの経過と状況がどうなっているかだけでも聞きたい。

事務局：ヒアリングを徐々に進めてはいるが、全地権者の意見を把握しているわけではない。ただし、お話をうかがった中では、否定的な意見はなかったと受け止めている。市が、いいまちづくりを進めていくことに対して「協力できれば」という包括的な意見は頂いている。

副会長：今回のたたき台については、よくきれいにまとめて頂いた、という第一印象である。皆さんご意見があったように、細かいところは今後詰める必要もあるが、たたき台は、「オープンスペースを中心にまちを再構成していこう」「住宅地の質をオープンスペースで高めていこう」という考え方が軸となっている。

公園・広場は防災機能や遊び場としての必要性はあるが、考え方によっては良い意味で贅沢品であるとも言える。これまで日本では建物を整備することを都市開発でずっとやってきたが、オープンスペースを適切な場所につくり、市民が活用し、守っていくことでエリアの価値を高めていくというまちづくりの方向性は良いと思う。

会 長：これで、概ね考え方についてはご理解いただけたと思う。しかし、まだ課題は残っている。再度おうかがいするが、今日のこの考え方について大枠はご理解いただけたということでよろしいか。

小林委員：大枠については、これ以上判断のしようがないが、地元住民として細かい点で気になるところはある。また、西恋ヶ窪3丁目自治会としては、国3・4・6号線の北側にも西恋ヶ窪3丁目のエリアがあるので、そこまで含めて考えて欲しい。

3. 事務連絡

会 長：次回の予定について事務局より説明をお願いします。

事務局：本日の議論の中で、考え方についてはご賛同頂けたと思っている。ただし同時

に、まだ詰めなければならないこと等が、今日の議論を経て明らかになってきたので、次回以降どう進めていくのか検討した上でお知らせしたい。

会 長：具体的な日時については決まっているのか。

事務局：次回は、2月14日を予定している。当初のスケジュールでは次回は最終回の予定であるが、議論の進捗を見て、次回改めてご相談したい。

4. 閉会

以上